



◀ユニットの仲間に「おすすめよ」と言われて  
 糖んだクリームみつ豆のおいしさに「私も友達  
 にすすめます」



▲週3日の喫茶の時間を支えるのは地域のボ  
 ランティアさん。この日は3人が参加。ボラン  
 ティアのきっかけは「会議施設のことを知りたく  
 て」「居心地がいいので、こうして気軽に通っ  
 ています」とも



◀テレビ画面では、昨日、デジタル写真がスラ  
 イド式に流れていて、思い出話に花が咲きま  
 す。家族と利用者の会話のきっかけともなっ  
 ています

「おいしいもの」と「共通の思い出」は  
 語らいの時間には必須です



喫茶のメニューには、飲み  
 物のほかにプリンやおし  
 るこ、ゼリーもあります。  
 「たくさんあって迷ってしま  
 うわね」、選ぶ楽しさを味  
 わいます



選ぶ楽しみの  
 ある暮らし

入り口入ってすぐのところにある喫茶スペースにて、お茶の時間に、前月の行事のスライド写真を見ながら、「あの日のお料理おいしかったですね」と利  
 用者さんの記憶にはたつきかけています



喫茶スペースのカウンター裏、大きなスタンドグラスの裏には、  
 パステル画が展示されています。絵は半年に1回くらいのペー  
 スでかけ替えられます

YAMAGUCHI



ふれあい  
 訪問

山口県下関市  
 地域密着型介護老人福祉施設  
 アイユウの苑ゆめタウン



▲嗜好調査の結果、予想以上に麺を好まれる方が多く、この日の昼食では初めてラーメンを試みました。日々の食事に季節感を取り入れています



週1回、クッキーやおまんじゅうなど、小分けのお菓子が施設内で販売されます。利用者は自分の好きなものを選んで購入。「明日、話が乗るからチョコレートもたくさんちょうだい」という方も



月に2度はホームヘルパーの資格をもつ理学療法士が、利用者の希望を聞きながら、ひびきり、カット、パーマ、毛染めなどを行います



重度の方に、しっかり寄り添う職員



ご夫婦で別々の居室に入居しているお二人。寂たまりのご主人を奥さんがよくよく訪ね訪ねられます。右は看護課。「医師との24時間365日の連絡体制があり、住診時には、具体的な指示もあるので、安心して看護できます」



▲さっきまでうつむいていた女性は、担当職員が「理容師さんが来てくれましたよ。髪に行きましょう」と声をかけると、ぱっと表情をやわらげ、自ら「よいしょ」と立ち上がりました



▲1階ロビーのエレベーター横には、その日自働している全職員の顔写真と名前が張り出されています。面会者への配慮ではあります。職員一人ひとりの意識を高めます

周防灘に臨む大型ショッピングセンター「ゆめタウン」には、スーパーマーケット、家電量販店などが入り、終日にぎわいを見せています。平成20年、その一角に「アイユウの英ゆめタウン」が開設されました。同じ市内にある特養を本施設とするサテライト型の小規模施設で、2ユニットに20名が暮らし、定員20名のショートステイを併設しています。

ショッピングセンターに隣接しているメリットは、利用者の皆さんが気軽に買い物を楽しめること。先日も首円ショッピングセンターを実施し、大変よろこばれました。また家族の面会に便利なことも大きな利点です。バスの便も良く、買い物の前後に立ち寄ることができ、面会の回数も滞在時間も、本施設にいた頃よりも増えました。さらに地域住民との距離が物理的にも近いので、施設との情報交流もよくなりました。

地域交流推進のサポートをしているのが、運営推進会議のメンバーである民生委員の皆さんです。地域とのパイプ役となり、施設見学会や施設主催の介護教室への参加を呼びかけるなどPRに努めています。その結果、住民の理解も深まり、



稲田智明さん

●主任ケアワーカー  
リーダーとして、職員のやる気を引き出すために心がけていることは、一人ひとりの良いところを見つけること。そして「あなたのそういう姿勢、褒め方が素晴らしい、自分も見習いたい」と本人に伝えるようにしています。また利用者さんに接するのと同じように、職員にも頻りに声をかけて、コミュニケーションをとることが大切ですね。



中村洋文さん

●主任生活相談員  
介護職は利用者さんの笑顔を引き出すことと一生懸命になるあまり、自分のことを忘れてしまいがちです。昔の私もそうでした。しかし「10年後の自分はこうなりたい」という明確な目標をもつと、日々のケアにあたるようになります。仕事への意欲、敬愛への意識が増しました。これからも、職場の仲間たちと共に、最善をもった介護を行ってまいります。

ボランティアも増えてきました。

また、社会福祉法人松美会は、平成11年、特別養護老人ホームとして日本で初めてISO9001の認証を取得したことで知られます。事務長の辻中清司さんは、ISOについて「私たちの施設には、あらゆることが、きちんと、ていねいに、できていくことがあり、それを維持、継続、そして改善してきました」と説明します。たとえば転倒などを起きた場合、要因分析をどう行う、改善策を立て、その改善策をどう評価するか、という具体的な手順が明確です。ひやりハット報告書が始末書に終わることなく、業務改善ツールとして機能するので、それは、ミスをした職員が一人で悩むことがなく、部署の全員で考えるしくみでもあります。

また、苦情対応や新人教育に関してなど、さまざま場面において、計画・実施・評価・改善のサイクル（PDCAサイクル）が機能しています。

このようなしくみは、職員の働きやすさにつながり、それは良いサービスを生み、結果として職員のモチベーションを高め、職員の定着というサイクルもつくり出しています。



地域のボランティアさんがサポートしながら、花の苗をベランダに並べるコンテナに植え替え。「赤とピンクがほしい」という利用者さんの声に応じて、華やかな色の花を調達しました。若い側の男性は民生委員で、運営委員会メンバー。「一人でも多くの住民に、ここを知ってもらいたいと思っています」と語ります。



植え替え作業後、参加した全員が花を囲んで記念撮影



太田さんの持つ鉢植えは、誕生日に家族から贈られたもの



誕生日の昼食時には自分の好きなメニューを注文できます。太田さんのリクエストはちゃんばん。



畑には、みんなが食べたいというものを植えます。これが自慢のダイコンです



やさしいとおしげに草花に触れる――



●利用者さんからひとこと

太田 キヨさん

植物への深い愛情と豊かな知識をもつ“園芸部長さん”

「そろそろトマトの苗を植える時期よ」「バラに肥料をあげましょ」と、毎日、花や野菜のことを気にかけている太田さん。若い頃からガーデニングが趣味で、自宅の庭は四季をとおして花で彩られていたそうです。

ゆめタウンに入居後も、居室には太田さんの鉢植えの花を絶やさず、ベランダの花壇、屋上の菜園の世話も率先して行っています。暑い日も寒い日も「お花がかわいそうだから」と外に出て水やりを欠かしません。

園芸への愛情と知識の深さに敬意を表し、職員は「園芸部長さん」と呼んで嬉りにしています。「昨年、初めて手がけたダイコンがとてもおいしく育って、ユニットの皆さんにはめられたの」とうれしそうに話してくれました。

太田さんは今日も、草花の手入れと、大好きなお風呂で入浴時間を大切にしているそうです。太田さんは今日も、草花の手入れと、大好きなお風呂で入浴時間を大切にしているそうです。



「この職員さんは話しやすい、どんなことでも真剣に聞いてくれます」

施設の子どもたちに  
福祉の心を伝えたい



当施設では、一般の住民向けの介護教室のほか、子ども向けの教室も開催しています。高齢者を支えるまちづくりの第一歩は、子どもたちが福祉の心をもつことだと考えているからです。

教室には十数人の児童が参加し、車いすに乗ってもらう体験をしました。「目標がとんでも低くなるので驚いた」「いきなり押されると、すごく怖い」「生活が不便になることがわかった」という子どもたちの声から、よい学びができたと考えています。

施設のある長府地区は高齢化率が27%を超え、在宅介護で苦労されている方もたくさんいらっしゃいます。地域包括支援センターや民生委員さんとも連携しながら、まち全体を支える力になりたいと思っています。

(注中真紀子副施設長)



記録を書きながら、2つのユニットのリビングを見渡すことができる見守りしやすい設計のスタッフルーム

社会福祉法人松美会 地域密着型介護老人福祉施設  
アイユウの発ゆめタウン

JR下関駅から車で30分ほどの長府地区に平成20年4月に開設。閑静な環境に建つ3階建ての施設で、居室から海を望むことができます。2ユニット20名の特別養護老人ホームに、同じく定員20名のショートステイが併設。地域住民に向けた月刊の広報誌「ゆめ1海秋瓦びん」を発行し、自治会長を通じて地区の全戸に配発。施設行事や介護教室への参加を呼びかけています。



〒752-0926 山口県下関市ゆめタウン2-24  
Tel.083-249-2200